

視覚障害学生の職業興味について

教育方法開発センター視覚障害系 石田久之

要旨： 視覚障害関係学科1年次生38名に対し、職業興味検査を実施した。編曲者、無線技師、理学療法士、販売事務員、音楽家、機械技師の6種において、学科間の違いが認められた。また、男性-女性尺度において情報処理科の平均が他2学科よりも高い得点を示した。これらの結果から、三学科の職業興味について検討を行うと共に、視覚障害者用の職業興味検査の開発について述べた。

1. はじめに

専門的な職業人の育成をめざす本学への入学者には、入学時において、既に明確な将来への目的意識と、卒業後の職業についての具体的な目標を有している事を期待したい。しかし、実際には、職業興味を含めた就労への意識は、必ずしも明確ではないであろう。

一方、職業興味は、基本的には、個々の学生の問題である。同一学科の在籍者であっても、当然、ある職業に対する好悪、興味は異なるであろう。しかし、視覚障害関係の三学科はその教育目標が明確に異なっている。この為、特定の職業に対する関心は、同一学科内の学生においては類似し、この結果として、学科間ではかなり異なる事を予想できる。

そこで、本報告は、視覚障害関係学科に入学した学生の職業興味について、三学科間での異同という点から検討する事を目的とした。

2. 方法

1. 検査対象

平成7年度筑波技術短期大学鍼灸学科、理学療法学科、情報処理科に入学した37名の学生と平成6年度に入学し休学していた学生1名を検査対象とした。各学科毎の人数の内訳は表1の通りである。

表1 被験者

学科	人数
鍼灸	19
理学療法	10
情報処理	9

2. 検査方法

2-1. 検査日時

検査は、平成7年5月下旬に行った。入学後約一ヶ月半を経過し、また、五月初旬の連休に一度親元などに戻り、心身共にある程度落ちついたと思われる時期として、この時期を選んだ。

検査は、原則として、同一教室内において、同時に行ったが（集団式実施）、やむを得ぬ事情で出席できなかった者は、後日、別に調査を行った（個別式実施）。

2-2. 検査

検査には、VPI職業興味検査（改訂版）を用いた。この検査は、大学、短期大学生を対象として、標準化が行われたものである。ジャーナリストから始まる160の職種（表2）について、関心・興味の有無を「Yes」、「No」、及び、「無記入」で解答するものである。

なお、視覚障害者用として特別に開発されたものではないが、今後、晴眼者との比較や視覚障害者用の職業興味検査の開発を行う為の基礎資料の収集という点を考慮して本検査を用いた。

この検査は、興味領域尺度と傾向尺度を測定できるようになっている。前者は、現実的興味領域尺度（R尺度）、研究的興味領域尺度（I尺度）、社会的興味領域尺度（S尺度）、慣習的興味領域尺度（C尺度）、企業的興味領域尺度（E尺度）、芸術的興味領域尺度（A尺度）の六つの尺度からなっており、後者は、自己統制傾向尺度（C_o尺度）、男性-女性傾向尺度（M_f尺度）、地位志向傾向尺度（S_t尺度）、希有反応傾向尺度（I_n_f尺度）、黙従傾向尺度（A_c尺度）の五つの尺度からなっている。

2-3. 手続き

この検査は通常、検査用紙が配付された後、受検者が項目を読んで、印を付けていくものである。しかし、視

表2 VPI職業興味検査の検査項目

ジャーナリスト	大工	無線技師	ディーゼル機関士
私立探偵	臨床検査技師	研究所所長	植物学者
レストラン従業員	言語治療士	臨床心理学者	カウンセラー
シナリオライター	公認会計士	税理士	原価計算係
小売店員	知事	レストラン支配人	広報課長
出札係	文筆家	イラストレーター	彫刻家
写真家	消防士	オートバイ・レーサー	探検家
ユーモア作家	経営コンサルタント	理学療法士	スタイリスト
インテリア・デザイナー	美容師	各省局長	看護婦(士)
外交官	小説家	郵便配達員	判事
航空機整備員	パワーショベル運転工	システム・エンジニア	機械工
気象学者	人類学者	科学評論家	学芸員(博物館)
社会学者	結婚カウンセラー	社会科教師	精神科ケース・ワーカー
簿記事務員	信用貸付調査係	公務員	給与係事務員
相場師	テレビ・プロデューサー	司会者	政治家
詩人	商業デザイナー	肖像画家	劇作家
潜水士	動物調教師	発破係	テスト・パイロット
芸能人	セールスマン	警察官	スポーツ指導員
航空機操縦士	栄養士	国語科教師	物理学者
弁護士	レジ係	国連職員	トラック運転手
野生動物保護監視員	測量技師	植木職	電気技師
生物学者	動物学者	科学雑誌編集者	考古学者
高校教師	小、中学校長	福祉事務所所長	職業相談員
秘書	法廷速記者	電子計算機オペレーター	銀行監査係
商品仲買人(バイヤー)	ホテル・マネージャー	チェーン店店長	セールス・マネージャー
オーケストラ指揮者	フリー・ライター	声楽家	漫画家
建築物解体業者	スタントマン(映画・テレビ)	麻薬取締官	自動車レーサー
獣医	商社員	宇宙飛行士	薬剤師
幼稚園教員	工場長	スチュワード、スチュワーデス	ソーシャル・ワーカー
医師	ホテルのボーイ、メイド	大学教授	販売事務員
葬儀師	建築設計技師	長距離バス運転手	自動車整備士
演出家	科学者	地質学者	天文学者
ディスク・ジョッキー	青少年指導員	児童福祉キャンプ指導員	非行少年補導員
出荷・受荷係事務員	銀行窓口出納員	プログラマー	会計監査員
犯罪心理学者	会社社長	不動産外交員	広告業者
保健事務員	編曲者	作曲家	音楽家
清掃員	競馬騎手(ジョッキー)	登山家	放射性廃棄物取扱技術者
集金員	研究員	料理長	新聞記者
ガソリンスタンド従業員	プロゴルファー	総務部長	機械技師
マッサージ師	銀行頭取	プレイガイド従業員	バーテンダー

覚障害者を対象とした場合、全盲者、強度の弱視者は検査用紙を全く、或いは、正確に読むことができない場合がある。そこで、本検査においては、全項目を検査者が読み上げる事によって、受検者の負担を最小限とした。解答に際して、検査用紙に記入できる者はそのまま行ったが、点字を使用している者については、点字用紙に、項目番号と解答を記入させ、検査終了後、検査者が点字を読みとり、検査用紙に書き移した。

検査終了後、『VPI職業興味検査手引【改訂版】』に従って、得点化した。

3. 結果

1. 各職種についての興味

160の職種全てについて、「Yes」、「No」、「無記入」の回答の度数に三学科間で違いがあるか否かについて検討した。

χ²乗検定の結果、5%水準で学科間に有意な違いがみられた職種をあげると、編曲者、無線技師、理学療法士、販売事務員、音楽家、機械技師の6種であった。この他に、有意傾向を示したものが、簿記事務員、高校教師、獣医、幼稚園教員、ホテルのボーイ（メイド）、銀行窓口出納員、臨床心理学者、総務部長、プレイガイド従業員、看護婦（士）、給与係事務員、自動車レーサーの12種あった。

表3～8は、有意な違いを示した、6種の職業それぞれについて、残差分析を行った結果である。

編曲者については（表3）、鍼灸学科では無回答のものが多く（ $p < .01$ ）、理学療法学科では、Noと回答したも

のが多かった（ $p < .05$ ）。

無線技師については（表4）、鍼灸学科では、Yesの回答が少なく（ $p < .05$ ）、無回答が多い（ $p < .01$ ）。一方、情報処理科では、Yesの回答が多かった（ $p < .01$ ）。

理学療法士については（表5）、鍼灸学科では、Yesの回答が少なく（ $p < .01$ ）、無回答が多い（ $p < .01$ ）。理学療法学科では、Yesの回答が多く（ $p < .05$ ）、Noの回答は少ない（ $p < .01$ ）。

販売事務員については（表6）、鍼灸学科では無回答が多い（ $p < .01$ ）。情報処理科では、Yesの回答が多い（ $p < .01$ ）。

音楽家については（表7）、鍼灸学科ではNoの回答が少ない（ $p < .01$ ）。理学療法学科では、Yesの回答が少なく（ $p < .01$ ）、Noの回答は多い（ $p < .05$ ）。

機械技師については（表8）、鍼灸学科ではYesの回答は少ない（ $p < .01$ ）。一方、情報処理科では、Yesの回答は多い（ $p < .05$ ）。

2. 各尺度における学科間の違い

表9～19は、11の尺度別に、学科毎の素点の平均について、分散分析を用いて検討した結果である。

興味領域尺度6種については、学科間の違いは認められなかった。

傾向尺度については、男性-女性尺度にのみ有意差がみられた。これについてシェッフェの法を用いた多重比較により検討を行ったところ（表20）、鍼灸学科と情報処理科との間、理学療法学科と情報処理科との間に有意差がみられ（共に、 $p < .05$ ）、情報処理科の平均が他2学科よりも高い得点を示した。

表3 残差分析結果（編曲者）

	Yes	No	無
鍼灸	-.673	-1.300	2.669
理学	-1.041	2.091	-1.487
情報	1.769	-.544	-1.595

表4 残差分析結果（無線技師）

	Yes	No	無
鍼灸	-2.690	.979	2.092
理学	.541	-.020	-.648
情報	2.532	-1.092	-1.751

表5 残差分析結果（理学療法士）

	Yes	No	無
鍼灸	-2.018	.382	2.399
理学	2.623	-1.913	-1.337
情報	-.241	1.414	-1.434

表6 残差分析結果（販売事務員）

	Yes	No	無
鍼灸	-.890	-1.026	2.092
理学	-1.487	1.672	-.648
情報	2.446	-.450	-1.751

表7 残差分析結果（音楽家）

	Yes	No	無
鍼灸	1.631	-2.394	1.057
理学	-2.282	3.154	-1.178
情報	.351	-.327	-.063

表8 残差分析結果（機械技師）

	Yes	No	無
鍼灸	-2.094	.650	1.780
理学	-.691	.965	-.441
情報	3.045	-1.670	-1.595

表 9 分散分析表 (現実的興味領域)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	22.694	11.347	.766	.4724
誤差	35	518.280	14.808		

表 10 分散分析表 (研究的興味領域)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	1.290	.645	.042	.9588
誤差	35	536.526	15.329		

表 11 分散分析表 (社会的興味領域)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	7.606	3.803	.392	.6788
誤差	35	339.789	9.708		

表 12 分散分析表 (慣習的興味領域)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	33.458	16.729	1.315	.2815
誤差	35	445.410	12.726		

表 13 分散分析表 (企業的興味領域)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	24.843	12.421	1.243	.3009
誤差	35	349.710	9.992		

表 14 分散分析表 (芸術的興味領域)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	4.401	2.200	.145	.8655
誤差	35	531.073	15.174		

表 15 分散分析表 (自己統制傾向)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	28.765	14.383	.676	.5152
誤差	35	744.813	21.280		

表 16 分散分析表 (男性—女性傾向)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	82.906	41.453	8.427	.0010
誤差	35	172.173	4.919		

表 17 分散分析表 (地位志向傾向)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	10.389	5.195	.824	.4471
誤差	35	220.689	6.305		

表 18 分散分析表 (希有反応傾向)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	60.874	30.437	2.272	.1181
誤差	35	468.837	13.395		

表 19 分散分析表 (黙従傾向)

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
学科	2	51.537	25.769	.915	.4099
誤差	35	985.726	28.164		

表 20 多重比較 (Scheffe)

	平均値の差	棄却値	p値	
鍼灸, 理学	-.848	2.294	.6436	
鍼灸, 情報	-3.537	2.215	.0011	S
理学, 情報	-2.689	2.605	.0418	S

4. 考察

160の職種について、「Yes」、「No」、「無回答」の度数を検討したところ、6種の職業に違いがみられた。

理学療法学科では、編曲者や音楽家という音楽関係の職種について、「No」という回答が多く、一方、当然のごとく、他の二学科に比べ、理学療法士に対する「Yes」という回答が多かった。入学時において、既に、職種として、明確に理学療法士を意識している事が窺える。

鍼灸学科では、対応する鍼灸師等の職業が160種の中になく、他の二学科と異なる明確な職業というものは統計的には見だし得なかった。他の二学科と同程度の対応する職業の掲載が視覚障害者用の職業適性検査としては、必要であろう。しかし、理学療法士に対する回答が、Yesの回答が少なく、無回答が多いという結果は、職業興味という点からは、単純に医療系として、鍼灸、理学療法両学科を括れない事を示すものである。

情報処理学科では、対応する職種として、プログラマ、オペレータ、システムエンジニア等があるがいずれについても、他二学科との違いは、認められなかった。しか

し、無線技師、機械技師については、「Yes」の回答が多く、わずかに、理工系の学科であることを伺わせている。また、男性-女性傾向尺度が情報処理学科で他二学科に比べ特に高い値を示し、無線技師、機械技師等の従来より男性の職業とされているものに対する指向性の強さが特徴的である。

160の職業の一割程度に学科間の違いが見られたが、むしろ、入学時には学科間の明確な“職業興味領域”に対する違いは無いと結論できる。しかし、視覚障害者用の検査が必要な事は先に述べた通りである。また、適職の発見と職業能力の向上が視覚障害者雇用の為の課題の一つであり¹⁾、職業興味の把握はその為に重要であるが、より適当な検査法の開発が急務である。

5. 参考文献

- 1) 視覚障害者職域開発研究会：視覚障害者職域開発研究会報告書総括編．労働省・日本障害者雇用促進協会研究調査報告書-1, 1991.